特255
376

新支那事情普及叢書

第十輯

昭和十四年十二月

支那新政權樹立に就いて

堀内干城

始

特 25
376

新支那事情普及叢書

東亞同文會

第十輯

支那新政權樹立に就いて

昭和十四年十二月

堀内干城

支那新政權樹立に就いて　目次

一、はしがき……一
二、新政權樹立の根柢……二
三、帝國と新政權の關係……六
四、北支蒙疆との關係……九
五、新政權の對內政策……一三
六、新政權の對外措置……一六
七、結　論……二三

特255
376

支那新政權樹立に就いて

堀內干城

一、はしがき

支那新政權の樹立に對し日本の援助、及び此の新政權を中心とした對外措置を如何にするかと云ふやうなことに就て、簡單に私の考へてゐる要點だけ申述べようと思ふ。尤もこれに述べんとする所は私一個人の考へで、政府は別に是等の問題に就て愼重に研究し且つ工作を進めて居るので、私の申述べる所と政府の考へと何處まで一致して居るかと云ふことは、必ずしもはつきり申し兼ねるが、私

の話に依り新中央政權の成立を中心とする事變收拾の途を判斷する一助ともなれば幸と存ずる次第である。

二、新政權樹立の根柢

周知の如く中國に於ける新政權の樹立に就ては、支那側卽ち汪精衞を中心とする新政權、此の下に立つべき臨時、維新兩政府の當局の間及び我方の各出先機關との間に、今日綿密なる話合と工作が進められてゐるのである。其の大體の順序は、近く青島に汪精衞を中心に王、梁の三人が集つて、新政權樹立の母胎たるべき政治會議を開くことに就て、又之を開くに臨み如何なる仕組で新政權を樹立するか、更に新政權と日本との關係を如何にするか、又中央政權と臨時、維新兩政府、蒙疆政權との關係を如何にするか、是等に就て基本的の話合をすることにな

つて居る。此の話合の濟んだ後に於て成るべく早く政治會議を開き、新政權樹立に關する事項及び樹立後如何にするかを決定する。而して其の決定に基いて新政權樹立の準備が進めらるゝのであるが、大體今年中に樹立を見る順序になるだらうと考へられる。

そこで、此の新政權の仕組及び日本との關係、是が事變處理に對し極めて重要な關係を持つて居る。申すまでもなく我が事變處理に關する根本方針は、支那を征服するのでなく、支那に於て容共抗日の政權の存在は、日本の生存發展、隨つて中國の生存發展、延ひては東洋平和に極めて有害なるが故に、此の存在は許されないのである。卽ち、之が爲に幾萬の生靈と幾百億の國帑を喪ひ、又銃後一億の臣民は一丸となつて銃後の護りに凡ゆる忍苦をして此の事變を乘切つて來たのであるから、今後に來るべき新政權と云ふものは、徹底的に反共的親日的と云ふ

根本方針を以て政治をやらなければならぬ。又其の根本方針を以て日本との關係を律しなければいけない。さう云ふ根本方針を以て律せられる日滿支三國の關係と云ふものは、政治的、經濟的、文化的に、極めて緊密なる關係に置かれなければならない。就中經濟的方面から言ふと、日滿支三國が互助連環を爲して、其の間に經濟的相互依存をする。又其の間の物資需給等に就て極めて合理的なる方法を設けて、此の三國が謂はゞ一の經濟的ブロックを形成すると云ふやうな所まで行かなければならぬ。又軍事的から言つても所謂防共の精神の下に、必要なる軍事上の提携をしなければならぬ。斯う云ふ極めて密接且重要なる關係が設置される譯である。其の結果として日本が新政權に對する關係に於て、新政權に對して或程度の把握と云ふものが、相當强く設定されることは當然の事である。併し、其の把握には自ら限度が存在して居つて、此の把握の程度が非常に强過ぎて、恰

も新しき中央政權が日本の傀儡であると云ふやうな形になると、これは事變處理の目標に合致せないこととなる。なぜならば、さう云ふ點にまで把握が及ぶならば、是は支那四億の國民から見ると、斯の如く日本が强大なる把握をして居る政權は、卽ち日本に依る支那の併合、征服と云ふものの、一つのカムフラージに過ぎない。卽ち日本は新政權と云ふものをカムフラージにして支那の征服をして居る。隨つて其の實質を爲す日支の提携と云ふものは必然的に支那の搾取である。日本人の利益の爲にする支那の搾取である。又文化と云ふものも文化侵略であると、斯う云ふ風に支那國民が考へて來ることは當然である。從つてさう云ふものを作つて見た所で、其の新政權に依つて支那四億の民心を收攬して善政を施し、治安を恢復すると云ふことは決して望み得ない。蓋し支那の治安と云ふものは今非常に紊れて居る。之を新政權に依つて相當の程度に恢復し、其の新政權の善政

に依つて、支那四億民衆をして新政權を支持せしむる傾向を作る。卽ち此の傾向が軍の匪賊討伐と相俟つて加速度的に支那の治安を恢復し、進んで所謂新秩序を建設せねばならぬ。是が新政權樹立の根柢でなければならない。

三、帝國と新政權の關係

前述の如く日本が强大な把握をすると云ふことになれば、支那の時局の收拾、民心の收攬と云ふことは武力に依つて爲さなければならぬことになる。斯の如き事態に立至ると、現在幾百萬と云ふ多數の皇軍は、一面に蔣介石の武力を擊破し大規模の戰爭をなし、又他面には占領地域の到る處に橫行して居る土匪、共產軍遊擊隊と云ふやうなものを討伐する爲めに、武力を更に擴大して兵隊も增さなければならぬ。之を極端に考へると恐らく今後何年間かに亘つて多數の軍隊を支那

に駐屯せしめて討伐を續け、幾千萬の支那民衆——それは新政府に反抗する民衆を討伐すると云ふことになるのであるが、是は中々至難である。或は絕對不可能でないとしても、日本現在の情勢として又世界の情勢から見ても、さう云ふ所に事變收拾を持つて行くと云ふことは、國家の運命を危殆に導くのであると言はねばならない。どうしても今日よりも武力の行使の程度を少くし、其の武力行使の足らぬ所は、新政權の首班である汪精衞の辯舌の力と云ふか、政治的手腕に依つて民衆を收攬せしめ、是と相侏つて支那の治安を恢復し、新秩序建設を進めると云ふことが、本筋でなければならないのである。

卽ち、さう云ふやうな根本原則に立つて、此の新政權が今や成立の過程に在るのであるが、此のやうな適當な把握——適當な把握とは、此の政權と云ふものが支那國民から見て、名實共に獨立せる中國の政權で、從つて此の政權の首班者で

ある汪精衛は吾等の汪先生であると云ふ風に考へられるやうな程度の把握に止めなければならない。是は理想論である。併し乍ら、一方に於て前に述べたやうに我が帝國が事變以來今日まで拂つて來た生命財産等絶大な犧牲、又銃後國民の非常なる熱誠と犧牲及び將來又と再びこんな事變を繰返してはならないとの國民的希望、是等のものが一丸となつて、事變處理の背後に殺到して居る此の絶大なる力、此の力を脊中に脊負つて事變處理をして居るのであるから、此の絶大な力に推されて今申したやうな合理的な程度の把握に止めると云ふことは、恐らく不可能ではあるまいかと私は思ふ。隨つて玆に近く出來上るべき新政權と云ふものに對する日本の把握は、支那國民が認めて滿足すべき程度の把握でなく、相當に出過ぎた把握になるだらうと云ふことは當然であると私は考へる。

四、北支蒙疆との關係

更に、新政權と北支政權及び蒙疆政權との關係に見ても、亦新政權が傀儡的の色彩を多分に持つと云ふことは已むを得ない。それは前に述べたやうに支那全體に對する日本の把握と云ふものは、或る程度の、緩和をされなければならないと云ふことは當然であるとしても、特に北支及び蒙疆の地域に於ては、それと日滿支との關係と云ふものが、それ以外の部分よりも更に緊密にしなければならないからである。卽ち北支に於ては經濟上から云へば强度の結合地帶である。蒙疆は其の外に防共の第一線である。防共に對する色々な施設を急速に進行せしめなければならない。斯う云ふやうに日滿兩國に對し他の支那に比して極めて緊密なる關係に立つて居る。是と日滿兩國との關係が非常に强化されると云ふことは、卽

ち日滿兩國の北支に對する把握が强くなつて來るのである。卽ち反對の方面から言ふと、新政權の蒙疆、北支に對する權限が非常に制限される。是は當然のことである。併し乍ら、此の新政權の蒙疆及び臨時政府に對する權限が極端に縮少されるならば、蒙疆及び臨時政府が獨立の形となるのである。北支、蒙疆は獨立ではいかぬ。獨立すると云ふことになると是は問題外である。然らば蒙疆及び臨時政府の所謂自治的色彩が極端に明白になつたならばどうであるか。是もやはり事變處理の目的にはそぐはない。なぜならばさう云ふやうな政權を作つて見ると、新政權と日本との關係は或る程度まで我慢出來ると云ふ狀態であつても、此の新政權が北支、蒙疆に對して殆ど何等の權限を持たない。卽ち北支、蒙疆と云ふものは、實質上に於て獨立に等しい狀態になると云ふことになれば、是は支那の民衆から云へば日本は新政權の相當なものを作つた。併し其の新政權の本に立つべき筈である北支は殆ど獨立して居る。是は卽ち日本は新政權と云ふカムフラージを作つて、北支を取つてしまふ。次いで來るものは日本の立場が相當强化すれば中支南支もやはり北支と同じやうな運命に立至る。卽ち斯の如き新政權、新支那建設は、一つの日本の侵略の過程に過ぎないのであると云ふ風に考へる。斯の如く四億の民衆が考へる場合には、やはり新政權の樹立に依つて支那四億の民心を收攬し、最小限度の軍の活動に依つて治安を維持し、其の上に新秩序を建てやうとする事變處理の目的はやはり畫餅に歸するのである。故に新政權と北支との關係に及ぶやうな仕組でなければならないのである。卽ち獨立にあらず、又純然たる一地方政權にあらず、其の中間に居つて、相當日滿北支の關係を强化すべき目的を十分に達し得ると云ふ程度に止めなければならないと思はれるのである。斯う云ふ風に考へると新政權と云ふものは、北支との關係に於てもやはり理想には

極めて遠ざかつて行く、卽ちそれだけ支那民心を收攬すると云ふ目的は十分に達し得ないであらうと考へられる。

五、新政權の對內政策

そこで、斯の如き十分に支那の民心を收攬することが出來ないやうな政權、及び之に屬する北支の政權を作つて、それで以て事變處理の目的を達したと謂ふことは出來ないのである。新政權が出來、又特殊的色彩を持つ北支政權が出來ても尙ほ蔣介石の軍隊は西南に割據し、常に挑戰攻擊をする。之に對して大なる兵力を、長い期間用ゐなければならぬ。又占領地域全體に向つて、やはり大規模の土匪討伐を相當長くやつて行かなかければならぬ。是ではちつとも事變收拾にならない。事變處理の目的を達しないぢやないかと云ふ疑問が起つて來るのであるが

是は當分の間は其の通りであると考へる。併し乍ら、さう云ふ狀態を長く續けることは、帝國國運の前途から見て極めて憂ふべきであるが、何とかして此の新政權が四億の民心を漸次收攬して、漸次其の治安の確立、及び新秩序の建設に、十分の餘地を與へるやうな方向に、新政權を仕向けて行かなければならない。それは一面に於ては此の出來上つた——言葉は惡いが、十分理想的でない新政權、之を能く誘導し、之をして四億の國民に對して十分に善政を布かしめ、かくて、徐ろに民心を惹附けると云ふことに仕向けることが一つである。併し、それよりも決して劣らないもう一つの方策がある。それは卽ち此の新政權が、今後列國に對して如何なる對外措置を執るかと云ふことが、內政に比しちつとも劣らない重要な一つの面である。是は端的に言ふと斯う云ふやうな例になると私は思ふ。例へば玆に一軒の店がある。其の店舗は相當の老舗であるが其の家庭は非常に亂脈で

ある。夫婦喧嘩をし、或は兄弟喧嘩をする。家の中は汚なく、不整頓で、家庭としては極めて亂脈な店である。併し如何に家庭が不整頓であつても店に於ては良い品物を安く賣る。又サーヴイスを良くして行くと云ふことが若も出來るならば此の店は家庭が亂脈であるに拘らず商賣は繁昌するのである。併し、家庭は亂脈であり、同時に賣つて居る品物は惡くて高い。サーヴイスは惡いと云ふやうなことになると、此の店は段々客足が無くなつて、遂には商賣は衰滅し店は潰れてしまふと云ふことになるのである。卽ち今や樹立せんとする新政權が完全に理想的でないとしても、一面に於て今申した內政も段々よくして行く。特に其の外交——外國に對する施設に於て、外國の考へて居ることを相當の程度まで認めて行く是と協力して行くと云ふことが出來るならば、卽ち、外國はそれに依つて自分の權益を相當に保護出來る。自分達の商賣も從來に比して不便なくやつて行けると云ふことになれば、結局外國は何を苦しんで西の方に引込んで居る蔣介石を無理矢理に援ける必要があらうか、之に依つて自分の權益と商賣を擁護發展せしめると云ふ必要はなくなつて來る。斯う云ふ風な事態に立至らしめることが出來たならば、外國は此の新政權に對して、或る種の關係を付ける。之に對して速かに法律上の承認を與へることは難かしいとしても、是と事實上の關係を付けることが可能になつて來る。さう云ふ風になつて來るならば、支那國民から云ふと、成る程此の新政權は、日本との關係が餘り緊密であり、又相當の把握を持たれて居るが、併し政治はさう惡くない。又外國は之を相手にして段々是と關係を付けて來て居る、それなれば此の新政權は結局永續するだらうと考へて來る。さうなると新政權に對する民心の歸趨と云ふものは、極めて良好に趣いて來る。又外國が新政權と關係を付けるに從つて其の援蔣政策は漸次清算せられ、蔣介石の沒落とな

る。それ等が相援けて政權の强化となり、軍の治安工作と共に治安の恢復が案外容易に出來るのではないかと云ふ風に考へられるのである。

六、新政權の對外措置

然らば、之が爲めには新政權は外國に對して如何なる措置を執れば宜いか。又如何なる措置を爲し得るかと云ふことに付て其の要點を申上げやうと思ふ。第一に吾々は昨年の十一月、我が帝國が英米に對して申入を爲し、或は回答した其の明文の中にはつきり書いて居る。日本は事變に際し、又事變後に於て、決して外國の權益をすつかりおつぽり出すと云ふやうなことは毫も考へて居ない。卽ち權益は十分に尊重する。唯々此の事變中に於て大規模の戰爭をやつたが爲に、其の戰爭の餘波を受けて外國の權益が毀損される。之に對しては氣の毒に思ふ。適當

な調整も加へる積りである。又既存の外國の權益の中で外國の經濟活動に就ては必要なる商業上の機會均等、門戶開放と云ふやうなことは、日本が事變を處理して行く結果として建設すべき東亞の新秩序の必要上、當然の制限を受くべきだが此の當然受くべき制限を除いたならば、それは十分に尊重すると云ふことをはつきり聲明して居るのである。此の聲明の結果、外國は非常なる疑懼の念を持つて居る。是は抽象的に言へば極めて簡單なことであるが、之を具體的に考へて見ると、日本は新秩序建設の必要上、恐らく從來存して居つた外國の權益及び將來に於ける商賣に對して、相當大規模の廣い範圍の制限をするのぢやないか。卽ち制限の範圍が廣ければ廣い程、外國の權益、經濟上の活動は、將來締出しを食ふのではないか。今こそ日本は立派なことを言つて居るけれども、段々と外國の權益を締出して了ふと云ふことになるのではないかと云ふ心配を多分に持つて居る。

而かも此の外國の心配を裏書するやうなことが、作戰の必要上到る處に起るのである。例へば揚子江閉鎖、珠江の閉鎖、青島其の他地方に於ける外國船舶の入港を禁ずる。或は或る種の品物を軍の必要上、軍が一手に買付けて外國人は買付けることが出來ない。或る種の品物は輸出禁止をする。又北支に於ては聯銀券の强化を圖るが爲に、所謂爲替集中と云ふか、或る程度の貿易爲替管理をすると云ふやうな事例が、卽ち今述べたやうな外國の心配をすつかり裏書することになる。列國としてはどうも日本の聲明した此の新秩序建設の爲に必要なる制限と云ふものは、現在やつて居るやうなことを今後どし〳〵一般的にやるのぢやないかと云ふ風に心配をして居る。ところが實際に於て新秩序の建設上今後に於て果して外國の心配して居るやうな程度の外國權益、及び經濟活動の制限が必要であるかどうかと云ふことを考へて見ると、左程範圍の廣い制限は其の必要がないのぢやな

いかと考へる。先づ第一に北支に於ける經濟開發に就いて云ふと、北支開發會社及び其の子會社に依つて、北支に於ける鐵道を初めとして、電信、電話其の他の通信、石炭、鐵其の他の鑛物、地下埋藏物の開發、及び電力の擴充、製鹽事業、斯う云ふ北支經濟的開發の基本的產業は、總て國策會社及び其の子會社を以て統制を行ひ、是等の事業は主として日支合辦に依つて之を經營すると云ふことにして居る。是は卽ち北支に於ける經濟的活動の一つの重要な現れである。卽ち、日本は此の事變に於て絕大なる犧牲を拂つたのだから、此の北支の經濟開發は日本が自らやらなければならぬ。其の經濟開發に依る利益は日本が獲得すべき權利がある。併し乍ら今日の國際情勢から見て、何とかして速に各種の國防及び生產擴充に必要なる原料、資源と云ふものを早く開發して、自給自足をしなければならぬと云ふことを考へて、外國が此の事變處理に協力すると云ふ立場を執るならば

やはり外國に資材を供給さして、其の資材は必要ならば彼等が希望する如く、之を一つの鐵道、鑛山、製鐵と云ふやうな事業の株の一部にして之を投資すると云ふことが、日本に取つても、支那に取つても亦新に事變處理に協力する外國にとつてそれが利益であると云ふ風に考へられる。併し乍ら、さう云ふことを行ふ爲には、從來に比べて、從來なかつた條件が一つある。それは外國が是等の基本産業に資材を持つて來て、さう云ふ形で投資すると云ふことは日本は歡迎するが、それは從來に於けるが如き政治的背景を持つ投資では駄目である。御承知の通り從來外國は支那に投資をする時には、例へば鐵道借款を供給する場合には、必ず其の鐵道借款には技師長、會計處長、車務處長、其の他重要なる要所々々は必ず外國人を置いて、外國人が鐵道の建設をして自分で經營すると云ふやうな形になつて居る。鑛山亦然り、總ての外國の投資に依る事業は、何れも外國人の經營と云ふことが之に伴つて來る、是等のものが一つになつて、或は英國、或はフランス、或はアメリカと云ふやうな國の、支那に對する一つの大きな政治的勢力を形成して居る。是が蔣介石政權、或は其の他の支那の政權に對して、いつも政治的にものを言ふと云ふやうな仕組になつて居つたので、これが支那の植民地の原因となり、其の政治的不安の原因を爲して來たのである。そこで日本は新秩序の建設後に於ては、さう云ふ政治的背景を持つ投資は御免を蒙る。併しながら、さう云ふ政治的背景、卽ち鎧兜を脱いで、算盤を持つて來た外國の投資ならば、何千萬圓そこへ金を注ぎ込んでも、それに對する企業利益配當と云ふものを貰つてそれで滿足する。それ以外はちつとも干渉しない。斯う云ふやうな條件を外國が認める限り、外國の投資は其の重要なる基本産業に對して之を認めても、益こそあれ決して害はない。是は今から一年前に斯う云ふ說を私が爲したならば、恐らく

袋叩きに遭つたかも知れない。併し今日は、此の考と云ふものは、大體識者に於かれても御異存ない所であらうと信ずる。

併しながら、是等の投資を誘致するに對し、中々外國に於てもオイソレと來ないから、更に他の方法を講じてやらなければならぬ。それは卽ち既に壞した權益或は殺した人間——是は何も殺す爲に殺したんぢやないし、壞す爲に壞したんぢやない。こちらは自己の死活に關する大戰爭をして居つたので、其の傍杖を食つたので氣の毒に堪へない。氣の毒だと思ふから武士道的精神に依つて、慰謝料をやるものはやる。賠償するものはする。惡ければ惡いと云ふ。さう云ふやうなはつきりした極めて紳士的な、武士道的な態度を以て、此の過去の權益毀損と云ふことを考へてやることも必要である。それを日本が堂々と武士道的精神に依つてやる代りに、列國は支那に於ける新秩序の建設と云ふ日本の大きな目的を明白に認識し、之に協力すると云ふ立場を執らさなければいけない。斯う云ふ風な考で進むならば、列國も先に述べたやうに、事變處理後に於て、日本は支那を自分のものゝやうにしてしまふ。外國の權益、經濟活動と云ふものを、すつかりおつぽり出してしまふのであると云ふやうなことは、彼等の所謂杞憂に過ぎなかつたと云ふことが能く分る。さうして之に同意をして來ることが可能であると考へるのである。

七、結　論

其の他にもう一つ重要なことは、今日支那に於ける物價は非常なる騰貴を爲して居る。事變前に比べて恐らく四倍五倍の物價の騰貴を示して居る。例へば麥粉の如き事變前に一袋三圓十錢位だつたものが、其の後どん〴〵騰つて今日では一

袋七圓五十錢、約二倍半と云ふ所で公定相場を決めて居る。併し實際に於ては此の公定相場を以ては麥粉を買ふことが殆ど出來ない。多くは闇相場に依つて、幾らでも宜いから賣つて呉れと云ふ風にしてやつて居る。其の闇相場は一袋十一二圓と云ふ所に在る。之を米に直すと米の一石九十圓か百圓と云ふことになるのだと云ふことを、商賣して居られる方から聞いて居る。即ち中國人の生活程度は日本人に比べて三分の一或は五分の一であるが、其の生活程度である支那に於て米が一石百圓して居ると云ふことは、是が假令一時的の物價騰貴であるとしても、若し是が日本であつたならば米騒動が起るだらうと思ふ。他の物價に付ても皆同樣である。特に外國から入つて來る必要なる石油とか、機械類、或は被服材料と云ふやうなものの騰　方はもつとひどいので、支那の民衆は非常に困つて居る。此の狀態を此の儘尙ほ數ヶ月放つて置くならば、到る處に暴動が起るであらう。

起らなくても大部分の下層階級の人間は恐らく土匪になつて、持つて居る人の物を奪つてそれで衣食すると云ふより外に方法がないのであると云ふ風な形勢が相當に迫つて居ると思はれるのである。何故にさうなつたかと云ふことに就ては色色原因があるが、大體に於て戰爭の爲に田畑が荒され、家畜は殺され、交通機關が非常に破壞されて國內物資の流通が極めて圓滑を缺くと云ふ、是等の國內的原因も相當にあるが、其の主なる原因は恐らく私は、法幣が暴落したと云ふことに依る物價騰貴と云ふことが言へると思ふ。即ち法幣は一志二片半のものが、今日稍々持直して五片位、ひどい時は三片臺に下つて居る。是等の點を考へて見ると法幣暴落を此の儘放任して置いたならば、只の紙に等しいものになるかも知れない。紙になつたならば支那の經濟を根本から破壞する。新秩序の建設、經濟建設と云ふやうなことは全く夢のやうな氣がする。此の法幣が紙にならぬ前に、先づ

此の法幣の安定と云ふことを圖らなければならないと云ふことが、今日重大なる問題となつて來て居るのである。此の法幣の維持、安定を圖ると云ふ點に就ても外國を誘つて、英米に對して英米から一つ力を貸せ、但しお前が力を貸して吳れるのは結構だが、從來のやうに、お前の國の銀行が勝手に法幣や爲替の操作をやつて安定をすると云ふやうなやり方は感心しない、法幣は飽までも新政府の法幣であるから、新政府自身が之を運用する。其の運用に必要なる金を貸して貰ひたい。但し其の運用は外國に對して決して差別待遇をしない。特に或る種の外國を不利な地位に陷入れないと云ふことは當然である。若し心配があるならばさう云ふことをしないと云ふ、防止するに必要なる色々な措置が講ぜられる。併し今までのやうに、例へば今までは主として香港上海バンクが其の法幣の維持、貿易の代金決濟と云ふやうなことをやつて居つた。此の香港上海バンクと云ふものは支那から出て行く物資それの代金を自ら外國貨幣として持つ、其の外國貨幣として持つて居つたもの——占領地から出た物資の代金——から重慶の武器彈藥の決濟をして居つた。さう云ふことをされては困る。どうしても新政權が自分の領土內から出る支那の物資に對する代金は、是は自分で使はなければならぬ。專ら自分に必要なる輸入品の決濟に充てるべきもので、一厘と雖も重慶に與へることは出來ない。それは新政權の當然の權利である。それを行使する爲に其の運用は自分でやると云ふことは相當の理屈があることである。是等のことに就て列國が納得が行くやうに色々話合をして見るならば、列國としても支那や日本を亡ぼすと云ふ考を持つて居ない限り是は協力すべきであると考へる。

斯う云ふ色々な方面から考へて見ると、列國が、今後沒落するかどうか知らぬが兎に角邊境に偏在して居る蔣介石を無暗に援けて之を上海、南京に押出して來

ると云ふことは不可能なことである。不可能なことを可能と考へて蔣介石援助に憂身を窶すよりも、今述べたやうに外國に對する措置を極めて合理的にやると云ふ新政權と色々な關係を付けて、さうして自分達の權益及び商賣の安全發展を圖ると云ふことが、列國としては極めて實際的にして又有利である。隨つて斯う云ふ方面に列國を誘つて來ると云ふことは不可能ぢやないと私は考へる。さう云ふ風に考へると新政權と云ふものは、前述した如く支那民心收攬の立場から見れば尙ほ理想に遠ざかつたものであつても、之を以て十分善政を行はしめ、又外國に對して極めて合理的な措置を行はすことが出來たならば――又私は出來ると思ふが――遂に外國をして是と關係を付けしめ、善政と相俟つて着々と民心收攬の目的を達し、玆に事變收拾の促進を計ることが可能であると私は考へるのである。

397
157

昭和十四年十二月十五日印刷納本
昭和十四年十二月十八日發行　【非賣品】

編輯兼發行人　宇治田直義
東京市淀橋區戸塚町一ノ三〇

印刷人　河田保治
東京市淀橋區戸塚町一ノ三〇

印刷所　明立印刷株式會社
電話牛込四七九二番

發行所　東亞同文會
東京市麴町區霞ヶ關三丁目四ノ三
電話銀座(57)一〇五四八番
二六五六番

不許複製

終